

長野県上田市の「保命水」



東京都水道局　小島　理緒
（令和７年度抄録委員会委員）

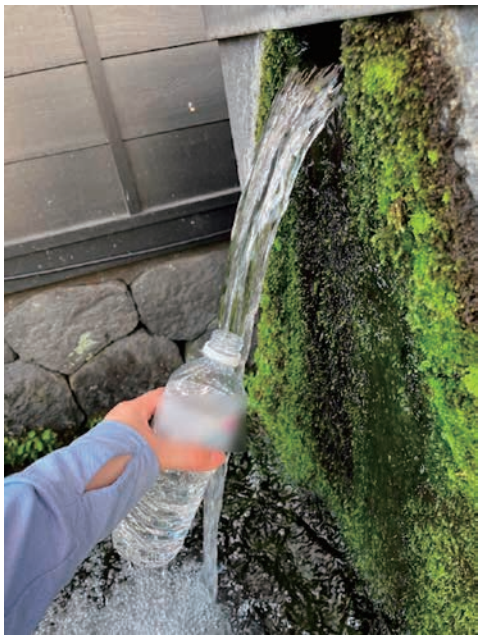
夏の暑い日に、真田氏ゆかりの地、長野県上田市を訪れました。旧街道沿いの情緒あふれる柳町通りを歩いていると、「保命水」という石碑が目に入りました。名前に惹かれて近づくと、自由に汲んでよい水とのこと、持っていたペットボトルに汲み取り、喉の渇きを癒しました。しばらく近くの日陰で休憩していたのですが、たくさんの２Ｌペットボトルに汲み入れている方や、バケツで豪快に汲み上げている方も目にし、地元の方に愛されている水源なのだろうなと思いながら見ておりました。

保命水の歴史を見てみますと、1881年に柳町の先人が北方の海善寺境内に湧き出る清水を木管で引いたのが始まりで、上田の飲料用水道としては最も古い施設とのことです。保命水は町中の人々の生活用水や非常用水として利用されたほか、街道往来の人々にも喜ばれ、多くの方に利用されていました。その後、1922年に上田市で上水道が開設されるまで、保命水は町民の負担で修繕・改修を行い、維持されてきたそうです。また、1949年の夏、水道事故により全市が断水した時には、保命水が水源として活躍したとのことです。

上田市に上水道が敷かれてからは、保命水の利用は少なくなっていったとのことですが、布設から150年近くたった水道施設が大切に保存され、今なお利用されていることに感銘を受けながら、ありがたくお水をいただきました。



保命水全景



こんこんと湧き出る水

注）湧き水のため、（特に生水での）飲用は自己責任です！